

どうぐ なまえ
道具の名前

こ た つ
火燧

寄贈者: 吉田様

つか かた
使い方

せいかつようぐ も もくたん まめたん なか い つか
生活用具。燃やした木炭や豆炭を中に入れて使
だんぼうぐ
った暖房具。



どうぐ なまえ
道具の名前

寄贈者: 斎藤様

つか かた
使い方

はか かっしゃ ぶひん おも おそ
測りまたは滑車の部品のひとつ思われる。恐らく
てんじょう つか
天井などに吊るして使うもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

わら う
藁打ち(ツツ)

寄贈者: 斎藤様

つか かた
使い方

わら か こうぐ わら たた やわ きづち
藁加工具。藁を叩いて柔らかくするための木槌。
やわ わら つか わらこうひん つく
柔らかくなった藁を使って「藁工品」が作られる。



どうぐ なまえ
道具の名前

ざ ぐ り き
座繰器

寄贈者: 斎藤様

つか かた
使い方

ようさんようぐ まゆ ひ いと ま
養蚕用具。繭から引いた糸を巻きつけるためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

寄贈者:三田様

つか かた
使い方

さお おも おも
竿ばかりの重りと思われる。



どうぐ なまえ
道具の名前

寄贈者:伏島様

つか かた
使い方

い どよう おけ おも
井戸用の桶と思われる。



どうぐ なまえ
道具の名前

寄贈者:伏島様

つか かた
使い方

さお てんじょう つぶひん
竿ばかりかなにかを天井などに吊るすための部品
とおもわれる。い どよう てんびん おも
と思われる。井戸用のもの、もしくは天秤とも思わ
れる。



どうぐ なまえ
道具の名前

寄贈者:伏島様

つか かた
使い方

わん ようさんよう おも
お椀セット、もしくは養蚕用のものと思われる。



どうぐ なまえ
道具の名前

寄贈者:新井様

つか かた
使い方



どうぐ なまえ
道具の名前

寄贈者:

つか かた
使い方

かね おそ いちぶ かね おも
鐘。恐らく、なにかの一部となっていた鐘と思われる。



どうぐ なまえ
道具の名前

ゆ
湯たんぽ

寄贈者:

つか かた
使い方

せいかつようぐ なか ゆ い つか だんぼうぐ
生活用具。中にお湯を入れて使った暖房具。



どうぐ なまえ
道具の名前

さおばかり
竿秤

寄贈者:

つか かた
使い方

おも はか きぐ かがわ
ものの重さを量るための器具。片側におもりを、その反対側に量りたいものを吊るして計量する。



どうぐ なまえ
道具の名前

いっとます
一斗枴

寄贈者:新島様 本島様

つか かた
使い方

ようりょう たいせき はか きぐ き いっぱい
容量(体積)を量るための器具。すり切り一杯が
いっと いっと やく
一斗となる。一斗は約18リットル。



どうぐ なまえ
道具の名前

おかも
岡持ち

寄贈者:山田様

つか かた
使い方

せいかつようぐ りょうり しょっき はこ はこ はこ
生活用具。料理を食器ごと運ぶための箱。箱その
て も はこ も て じょうぶ つ
ものを手で持ち運べるように「持ち手」が上部に付
いとくちょう
いているのが特徴。



どうぐ なまえ
道具の名前

ふ
振りマンガ

寄贈者:石倉様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ たがや うま ひ つか くわ
農業用具。耕すために、馬に引かせて使う鋤の
いっしゅ しほう むす ふ つか まぐわ
一種。四方にヒモを結び、振りながら使う。「馬鋤」
→「マンガワ」→「マンガ」となった。



どうぐ なまえ
道具の名前

ざくりき
座繰器

寄贈者:新島様

つか かた
使い方

ようさんようぐ まゆ ひ いと ま
養蚕用具。繭から引いた糸を巻きつけるためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

ざくりき
座繰器

寄贈者:新島様

つか かた
使い方

ようさんようぐ まゆ ひ いと ま
養蚕用具。繭から引いた糸を巻きつけるためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

寄贈者:斎藤様

つか かた
使い方

はか かっしゃ ぶひん おも おそ
測りか滑車の部品のひとつだと思われる。恐らく、
てんじょう つか
天井などに吊るして使うもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

めんき
麺切り

寄贈者:伏島様

つか かた
使い方

せいかつようぐ めんきじ の めんきじ き
生活用具。麺生地を伸ばしたり、麺生地を切って
めん つく
麺を作るもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

いちりんざ
一輪挿し

寄贈者:伏島様

つか かた
使い方

せいかつようぐ はな い かびん ひと
生活用具。花を生ける花瓶の一つ。



どうぐ なまえ
道具の名前

まゆ お
繭落とし

寄贈者:栗原様

つか かた
使い方

ようさんようぐ こうしじょう きわく わくひと ひと はい
養蚕用具。格子状の木枠の枠一つ一つに入っている繭を落とすためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

かいこ
蚕あげ

寄贈者:栗原様

つか かた
使い方

ようさんようぐ あ かいこ い
養蚕用具。つまみ上げた蚕を入れておくための皿。



どうぐ なまえ
道具の名前

ます か と か き
枡掻き/斗概

寄贈者:

つか かた
使い方

ようりょう たいせき はか きぐ いっとなます
容量(体積)を量るための器具。一斗枡で、すりきるために使う。



どうぐ なまえ
道具の名前

ざくりき
座繰器

寄贈者:新島様

つか かた
使い方

ようさんようぐ まゆ ひ いと ま
養蚕用具。繭から引いた糸を巻きつけるためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

まぶし織り機

寄贈者:進藤様

つか かた
使い方

ようさんようぐ わら つく
養蚕用具。藁から「まぶし」を作るためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

千歯こき

寄贈者:伏島様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ いね だっこく つか いなほ つ
農業用具。稲の脱穀に使うもの。稲穂が付いた
じょうたい 状態 でこすることによって 穂だけ を落とせる。



どうぐ なまえ
道具の名前

引き伸ばし機

寄贈者:伏島様

つか かた
使い方

しゃしんかんれんきぐ しゃしん うつ
写真関連器具。写真のフィルムに映ったものを
かくだい とうえい いんがし や つ きかい
拡大・投影し、印画紙に焼き付けるための機械。



どうぐ なまえ
道具の名前

寄贈者:

つか かた
使い方

つちい き ぶひん
土入れ機の部品。



どうぐ なまえ
道具の名前

ハーモニカ

寄贈者:

つか かた
使い方



どうぐ なまえ
道具の名前

まぶし

寄贈者:本島様

つか かた
使い方

ようさん ようぐ わら わら あいだ かいこ い そだ
養蚕用具。藁と藁の間に蚕を入れて育てるため
のもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

桶

寄贈者:伏島様

つか かた
使い方

い どうよう おけ おも
井戸用の桶と思われる。



どうぐ なまえ
道具の名前

蚕網

寄贈者:栗原様

つか かた
使い方

ようさん ようぐ かいこ た のこ くわ と のぞ
養蚕用具。蚕のフンや食べ残しの桑などを取り除
く作業の際に用いる網。



どうぐ なまえ
道具の名前

寄贈者:田口様

つか かた
使い方



どうぐ なまえ
道具の名前

寄贈者:新島様

つか かた
使い方



どうぐ なまえ
道具の名前

おけ
かいは桶

寄贈者:伏島様

つか かた
使い方

ちくさんようぐ うし しりょう い ようき
畜産用具。牛の飼料を入れる容器。



どうぐ なまえ
道具の名前

あら おけ
洗い桶

寄贈者:新井様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ しゅうかく やさい つ つち どろ
農業用具。収穫した野菜に付いている土や泥を
あら おけ
洗うための桶。



どうぐ なまえ
道具の名前

ボイスレコーダー

寄贈者:

つか かた
使い方



どうぐ なまえ
道具の名前

レコードプレイヤー

寄贈者:様

つか かた
使い方



どうぐ なまえ
道具の名前

み
箕

寄贈者:新島様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ だっこく まえ もみごめ むぎ
農業用具。脱穀する前の粃米や麦などをすくって
もち はこ
持ち運ぶためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

おけ
かいば桶

寄贈者:伏島様

つか かた
使い方

ちくさんようぐ うし しりょう い ようき
畜産用具。牛の飼料を入れる容器。



どうぐ なまえ
道具の名前

たわら あ
俵編み

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ こめだわら あ つく
農業用具。米俵を編んで作るためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

かいこ だい
蚕台

寄贈者:

つか かた
使い方

ようさんようぐ かぶ あし おき うえ かいこあみ し
養蚕用具。下部に足を置き、上に蚕網を敷いて
さぎょう だい
作業するための台。



どうぐ なまえ
道具の名前

じんりきしゃしゃりん
人力車車輪

寄贈者:

つか かた
使い方



どうぐ なまえ
道具の名前

ひ ば ち
火鉢

寄贈者:三田様

つか かた
使い方

だんぼうきぐ ようさん かいこ はついく てき
暖房器具。養蚕においては、蚕の発育に適する
しつおん たも りよう
室温を保つために利用される。



どうぐ なまえ
道具の名前

て お
手押しマンガ

寄贈者:新島様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ たがや うま ひ つか くわ
農業用具。耕すために、馬に引かせて使う鋤の
いっしゅ うま つな お おこう まぐわ
一種。馬に繋げ、押しながら行う。「馬鋤」→「マン
グワ」→「マンガ」となった。



どうぐ なまえ
道具の名前

かいてんぞく
回転簇

寄贈者:

つか かた
使い方

ようざんようぐ ちい しかくけい すきま まゆ い しいく
養蚕用具。小さい四角形の間隙に繭を入れ飼育
するためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

はったん ど
八反取り

寄贈者:新島様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ いね あいだ は
農業用具。稲の間に生えた
ざっそう と のぞ
雑草を取り除くためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

はったん ど
八反取り

寄贈者:新島様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ いね あいだ は
農業用具。稲の間に生えた
ざっそう と のぞ
雑草を取り除くためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

まい せん き
米選機

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ もみ げんまい
農業用具。粳と玄米の
こんごうぶつ もみ げんまい せんべつ
混合物を粳と玄米に選別す
るためのもの。別称:万石



どうぐ なまえ
道具の名前

はったんど
八反取り

寄贈者:齋藤様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ いね あいだ は
農業用具。稲の間に生えた
ざっそう と のぞ
雑草を取り除くためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

うす
臼

寄贈者:新井様

つか かた
使い方

せいかつようぐ もち りょう だい ぼうじょう きね
生活用具。餅つきに利用する台。棒状のものは杵
と呼ぶ。



どうぐ なまえ
道具の名前

めん う いた
麺打ち板

寄贈者:伏島様

つか かた
使い方

せいかつようぐ めん つく さい つか
生活用具。うどんやそばなどの麺を作る際に使う
もの。麺生地を延ばすための台。



どうぐ なまえ
道具の名前

かいこだい
蚕台

寄贈者: 斎藤様

つか かた
使い方

ようさん ようぐ かぶ あし
養蚕用具。下部に足を
おき うえ かいこあみ し
置き、上に蚕網を敷いて
さぎょう だい
作業するための台。



どうぐ なまえ
道具の名前

やくがわら
役瓦

寄贈者:

つか かた
使い方

けんざい おも やねぶ けんざい かわら ひと やね
建材。主に屋根葺きの建材・瓦の1つで、屋根の
めん めん あ ぶぶん はし こてい つか
面と面が合わさる部分の端を固定するために使わ
れる。



どうぐ なまえ
道具の名前

かいこかご
蚕籠

寄贈者: 栗原様

つか かた
使い方

ようさん ようぐ かいこ えさ くわ しゅうかく さい つ
養蚕用具。蚕の餌となる桑を収穫した際に積み
い
入れるためのかご。



どうぐ なまえ
道具の名前

たわら
俵

寄贈者: 新井様 新井様

つか かた
使い方

のうぎょう ようぐ わら つつじょう あ つく ふくろ おも
農業用具。藁を筒状に編んで作られた袋。主に
こめ のうさんぶつ い
米などの農産物を入れておくためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

しょうじ
障子

寄贈者:

つか かた
使い方

たてぐ おも へ や ろうか あいだ とお とびら まど
建具。主に部屋と廊下の間に通し、扉や窓として
やくわり も き わく わし づ
の役割を持つ。木の枠に和紙をのり付けしている。



どうぐ なまえ
道具の名前

かいこだいよう あし
蚕台用の足

寄贈者: 齊藤様

つか かた
使い方

ようさんようぐ かいこだい した お
養蚕用具。蚕台の下に置く
あし
足。



どうぐ なまえ
道具の名前

ざくりき
座繰器

寄贈者: 新島様

つか かた
使い方

ようさんようぐ まゆ ひ いと ま
養蚕用具。繭から引いた糸を巻きつけるためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

寄贈者:

つか かた
使い方



どうぐ なまえ
道具の名前

たわらしめき
俵締機

寄贈者:阿部様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ たわら ま なか し さい つよし
農業用具。俵の真ん中などを締める際に、強く締めるために使われる。



どうぐ なまえ
道具の名前

ぼう
くるり棒

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ こめ むぎ まめるい だつりゅう み くき
農業用具。米や麦、豆類の脱粒(実を茎から取る)に使われる。竹製の柄を持ち、上下に振ると先がくるくる回り、その部分を打ち付ける。



どうぐ なまえ
道具の名前

ぼう
くるり棒

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ こめ むぎ まめるい だつりゅう み くき
農業用具。米や麦、豆類の脱粒(実を茎から取る)に使われる。竹製の柄を持ち、上下に振ると先がくるくる回り、その部分を打ち付ける。



どうぐ なまえ
道具の名前

つち い くわ
土入れ鋤

寄贈者:新島様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ むぎ そだ なか おこな つち い つか
農業用具。麦を育てる中で行う「土入れ」で使う。「土入れ」とは、凍土防止や倒れ防止などを目的に、麦穂の上に土を振りかけること。



どうぐ なまえ
道具の名前

つち い くわ
土入れ鋤

寄贈者:新島様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ むぎ そだ なか おこな つち い つか
農業用具。麦を育てる中で行う「土入れ」で使う。
つち い とうどぼうし たお ぼうし もくてき
「土入れ」とは、凍土防止や倒れ防止などを目的
むぎほ うえ つち ふ
に、麦穂の上に土を振りかけること。



どうぐ なまえ
道具の名前

つち い くわ
土入れ鋤

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ むぎ そだ なか おこな つち い つか
農業用具。麦を育てる中で行う「土入れ」で使う。
つち い とうどぼうし たお ぼうし もくてき
「土入れ」とは、凍土防止や倒れ防止などを目的
むぎほ うえ つち ふ
に、麦穂の上に土を振りかけること。



どうぐ なまえ
道具の名前

さい ど き
砕土器

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ ひょうめん つち つち
農業用具。表面の土や土の
かたまり くだ つか おも むぎ
塊を砕くために使う。主に麦
たね まえ おこな
の種まき前に行く。



どうぐ なまえ
道具の名前

さい ど き
砕土器

寄贈者:伏島様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ ひょうめん つち つち
農業用具。表面の土や土の
かたまり くだ つか おも むぎ
塊を砕くために使う。主に麦
たね まえ おこな
の種まき前に行く。



どうぐ なまえ
道具の名前

はったんど
八反取り

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ いね あいだ は
農業用具。稲の間に生えた
ざっそう と のぞ
雑草を取り除くためのもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

さいどき
砕土器

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ ひょうめん つち つち
農業用具。表面の土や土の
かたまり くだ つか おも むぎ
塊を砕くために使う。主に麦
の種まき前に行く。
たね まえ おこな



どうぐ なまえ
道具の名前

さいどき
砕土器

寄贈者:新島様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ ひょうめん つち つち
農業用具。表面の土や土の
かたまり くだ つか おも むぎ
塊を砕くために使う。主に麦
の種まき前に行く。
たね まえ おこな



どうぐ なまえ
道具の名前

くわ
鍬

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ つち たがや じょそう
農業用具。土を耕したり、除草するためのもの。
うし さ ふ あ ふ お は
後ろへ下がりながら振り上げ・振り落とすことで刃
の部分(ぶぶん)を土の中(つちなか)へ刺し入れ(さい)、引き上げる(ひきあ)る。



どうぐ なまえ
道具の名前



寄贈者:

つか かた
使い方

どうぐ なまえ
道具の名前



寄贈者:

つか かた
使い方

せいかつようぐ いど みず く あ つか
生活用具。井戸の水を汲み上げるために使うもの。
じょうげ うご く あ ひだり
レバーを上下に動かすことで汲み上げ、左
ちゅうおうぶ いどみず で
中央部のパイプから井戸水が出る。

どうぐ なまえ
道具の名前



寄贈者: 齋藤様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ たがや うま ひ つか くわ
農業用具。耕すために、馬に引かせて使う鋤の
いっしゅ うま つな ひ おこな まぐわ
一種。馬に繋がず、引きずりながら行う。「馬鋤」
→「マングワ」→「マンガ」となった。

どうぐ なまえ
道具の名前



寄贈者: 石倉様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ わら いぐさ くさ あ しきものもの ごめ
農業用具。藁や藎草などの草で編んだ敷物。米
むぎ たいよう ひ あ かんそう とき
や麦などを太陽の陽に当てて乾燥させる時に
したじ
下敷きとして使う。

どうぐ なまえ
道具の名前

こうどき
耕土機

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ たはた つち たがや つか うし ひ
農業用具。田畑の土を耕すために使う。牛に引か
せて用いる。



どうぐ なまえ
道具の名前

エングワ

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ たはた つち も お つか
農業用具。田畑の土を盛り起こすために使う。
「エングワ」は柄鍬が訛ったもの。



どうぐ なまえ
道具の名前

つちい き
土入れ機

寄贈者:伏島様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ むぎ そだ なか おこな つちい つか
農業用具。麦を育てる中で行う「土入れ」で使う。
「土入れ」とは、凍土防止や倒れ防止などを目的
に、麦穂の上に土を振りかけること。



どうぐ なまえ
道具の名前

ばこうすき
馬耕犁

寄贈者:田口様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ いね むぎ そだ たはた たがや つか
農業用具。稲や麦を育てる田畑を耕すために使
うもの。左へ 90° 回転させ、左部分を馬に繋げ
て行く。



どうぐ なまえ
道具の名前

て お
手押しマンガ

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ たがや うま ひ つか くわ
農業用具。耕すために、馬に引かせて使う鋤の
いっしゅ うま つな お おこな まぐわ
一種。馬に繋げ、押しながら行う。「馬鋤」→「マン
グワ」→「マンガ」となったようです。



どうぐ なまえ
道具の名前

とう み
唐箕

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ だっこくご もみ むぎ ふよう
農業用具。脱穀後の粉や麦とくずやゴミなど不要
せんべつ じょうぶ いれ
なものとを選別させるためのもの。上部から入れ、
まわ ふうりょく せんべつ
ハンドルを回した風力で選別できる。



どうぐ なまえ
道具の名前

あし ふ せん ば
足踏み千歯こき

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ いね だっこく つか いな ほ つ
農業用具。稲の脱穀に使うもの。稲穂が付いた
じょうたい ほ お てまえ
状態でこすることによって穂だけを落とせる。手前
ぶぶん あし ふ おく まわ
の部分を足で踏むと奥のローラーが回る。



どうぐ なまえ
道具の名前

むぎ ふ
麦踏みローラー

寄贈者:新島様

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ じんりき おこな むぎ ふ いしせい
農業用具。人力で行ってきた「麦踏み」を石製の
おこな どうぐ むぎ ふ なえ きた じょうぶ
ローラーで行う道具。麦を踏み、苗を鍛え、丈夫
せいちょう おこな
に成長させるために行う。



どうぐ なまえ
道具の名前

むしろ おき
筵織り機

寄贈者:

つか かた
使い方

のうぎょうようぐ むしろ わら いぐさ くさ あ しきもの
農業用具。筵(藁や藁草などの草で編んだ敷物)
を編むためのもの。

